



吸排気弁 NAV-ODC4

IM102 取扱説明書

この度は弊社製品をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく施工して頂きますようお願い申し上げます。
また、お読みになった後も大切に保管してください。(この取扱説明書は弊社ホームページからもダウンロードいただけます。)

仕様

項目		呼び径	20	20×25	25	25×20
使用流体			水道水(常温:20±15°C)			
使用圧力			0.05~1.0 MPa			
性能	吸気量 (弁差圧2.9kPa時)	標準状態	910L/min (15.2L/sec)	1,010L/min (16.8L/sec)	1,070L/min (17.8L/sec)	980L/min (16.3L/sec)
	適応する立管口径 ^{注1} (標準状態)	A	50mm	50mm	50mm	50mm
		B	50mm	75mm	75mm	75mm
圧力下排気機能			あり			
本体接続ねじ			R3/4	R3/4	R1	R1
排水配管接続ねじ			Rc3/4	Rc1	Rc1	Rc3/4
重量			1.3kg	1.4kg	1.4kg	1.3kg
高さ			136mm	144mm	145mm	137mm
ストレーナの有無(吸気側)			なし	あり	あり	なし

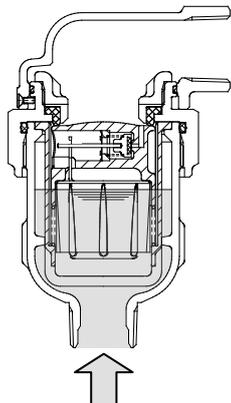
注1 A: 必要吸気量規定のある水道事業者(札幌市、横浜市、新潟市、名古屋市、京都市、堺市)及び都市再生機構の基準
B: 東京都水道局の基準

注意事項

⚠ 注意

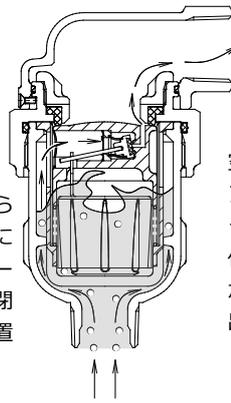
- 仕様の範囲内でご使用ください。仕様外での使用は機能低下や破損の原因となります。
- 保管は直射日光や雨水を避け、器具の内部にごみやほこりが入らないようにしてください。
- 取扱い中、器具の落下等に注意してください。損傷によって漏水や故障の原因となります。
- 解体作業等での直火等による加熱は、漏水の原因となりますのでおやめください。

機能



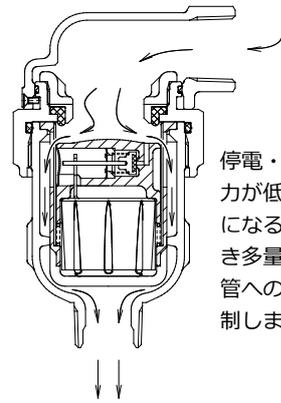
給水立管に給水開始時、吸排気弁の小空気孔から緩やかに排気。弁室内に水面が到達するとフロートが浮き、小空気孔が閉じ、水面上昇は図の位置で止まります。

充水時(弁閉止時)



空気が溜まってくるとフロートが下がり、シャフトにつながった弁体が傾いて、小空気孔から自動的に空気を排出します。

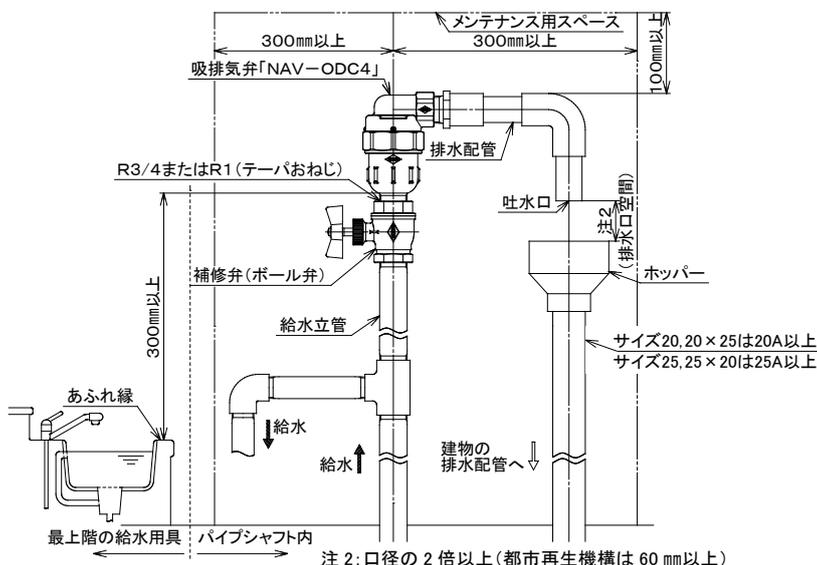
自動空気抜き時(排気時)



停電・断水などで給水圧力が低下、立管内が負圧になると、大空気孔が開き多量吸気。住戸から立管への吸い込み逆流を抑制します。

急速吸気時

設置例



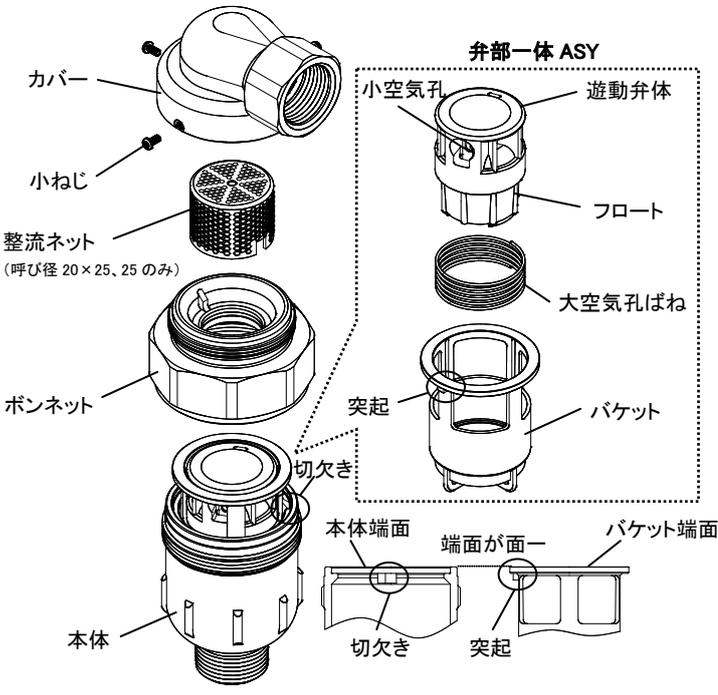
- 吸排気弁は**維持管理を要する器具**です。設置の際は、左図のように**メンテナンス用スペースを必ず確保**してください。また、建物の外壁に沿う配管等へ設置する際は、**安全に維持管理ができるよう配慮**してください。
- **取付け前に必ず洗管し、ごみ等の異物を十分に排出**してください。
- 取付け姿勢は鉛直とし、2°以上傾かないようにしてください。傾きが大きいと正常に作動しない場合があります。
- 給水器具や水受け容器のあふれ縁より**300mm以上、上方に設置**してください。(設置例を参照)
- 配管(排水配管)には適切な支持を確実に行ってください。
- テーパねじはシールテープ等のシール剤を使用し、本体下部の凸部にレンチをかけてねじ込んでください。

- ねじ部は鋭利なため、直接素手で握らないように注意してください。
- 万が一の排水に備えて、**吸排気口へ同径の鋼管又は塩化ビニル管等で接続し**、所定の排水口空間を設けて建物の排水配管へ導いてください。排水口空間を設けず直接建物の排水配管へ接続すると汚水を吸い込み、給水を汚染する場合があります。また、排水配管をビニルチューブで施工すると吸気量が大幅に減少し、逆流を防止することができません。(設置例を参照)
- 吐水口とホッパーの中心を合わせるように設置してください。排水の状態によっては、吐水口から外側へ飛散する場合があります。
- 保守点検時等に止水できるよう、**補修弁を必ず設置**してください。補修弁は、開閉が容易なボール弁や仕切弁を取付け、内径が絞られている玉形弁などは使用しないでください。また、開閉する際はゆっくり開閉し、全開で使用してください。(設置例を参照)
- 凍結が予想される場合は、保温等凍結防止策を講じてください。このとき、排水配管の吐水口を塞がないでください。
- 解氷作業等による直火での加熱は行わないでください。吸排気弁の内部部品が損傷し、漏水の原因となります。

保守・点検

△ 本製品を分解する場合は、補修弁を必ず閉じてから行ってください。補修弁を開いたまま分解すると、水の吹き出しや内部部品の飛び出しにより、怪我をしたり建物周辺を汚す恐れがあります。

1. 本製品の分解にあたっては、**熟練した専門の方が**実施してください。一般の方は分解しないでください。
2. 排水配管の吐水口から常時排水がある場合や空気の排出がない場合など異常が認められたときは、設備・工事業者または当社にご連絡ください。
3. 本製品の機能・性能を維持するため、定期点検を実施してください。
4. 内部部品を交換する場合は、**弁部一体 ASY**一式を交換してください。その際は、バケットの突起と本体の切欠きを合わせて、お互いの端面が面一になっていることを確認してください。



●ご不明な点は、最寄りの営業拠点までお問い合わせください。

吸排気弁の選定

吸排気弁は給水立管基部の最大口径を基準として、負圧を解消するために必要な吸気量を満たすことができる呼び径、台数を設置します。その際にはできるだけ設置しうる最大呼び径のものを設置してください。

給水立管口径ごとの必要吸気量

給水立管口径(mm)	※1 必要吸気量(L/min)	
	A	B
20	90	90
25	150	150
30	240	210
40	420	330
50	840	540
75	2004 ^{※2}	930
100	—	1500
150	—	3400

・吸気量は弁差圧2.9kPa時の値です。
・各水道事業者の基準を確認し従ってください。

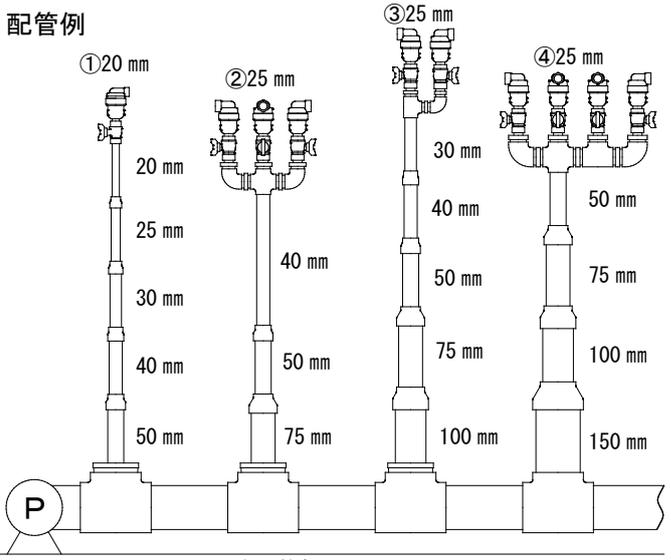
※1 必要吸気量規定のある水道事業者
札幌市、横浜市、新潟市、名古屋市、京都市、堺市など

※2 名古屋市の基準
堺市は930L/min

基準	配管例	給水立管最大口径	吸排気弁		
			設置部最小口径	呼び径	設置個数
A	①	20~50mm	20mm・25mm	全呼び径	1台
	②	75mm	40mm	全呼び径	3台
B	—	75mm	25mm	20以外	1台
	③	100mm	30mm	全呼び径	2台
	④	150mm	50mm	25	4台

A: ※1の水道事業者及び都市再生機構の基準 B: 東京都水道局の基準

配管例



素敵な創造 ~人へ~ 未来へ

本社・松本工場 〒399-8750 長野県松本市笹巻3046
北海道工場 〒059-1362 北海道苫小牧市柏原6-120
東京、設備、関東、神奈川、札幌、仙台、松本、北関東、名古屋、大阪、広島、福岡



営業拠点はこちら
弊社 Web サイト

<https://www.nippov.co.jp/>

ISO 9001・14001 認証取得

この取扱説明書に記載した内容は予告なく変更することがあります。
また、許容値のない数値は標準値を示します。呼び寸法・呼び径と実寸法は同一ではありません。

IM102 2410.5000D